

就活生にもビジネスパーソンにも！
エンタメ感覚で
スラスラ読めちゃう
経済本の
決定版！！



02 | トランプ関税 | Trump Tariff

抱える貿易赤字、特に中国との巨額の赤字を減らし、国内の産業を保護することでした。

☑ 第1次のターゲットは中国。
アンフェアな貿易に対する報復が目的

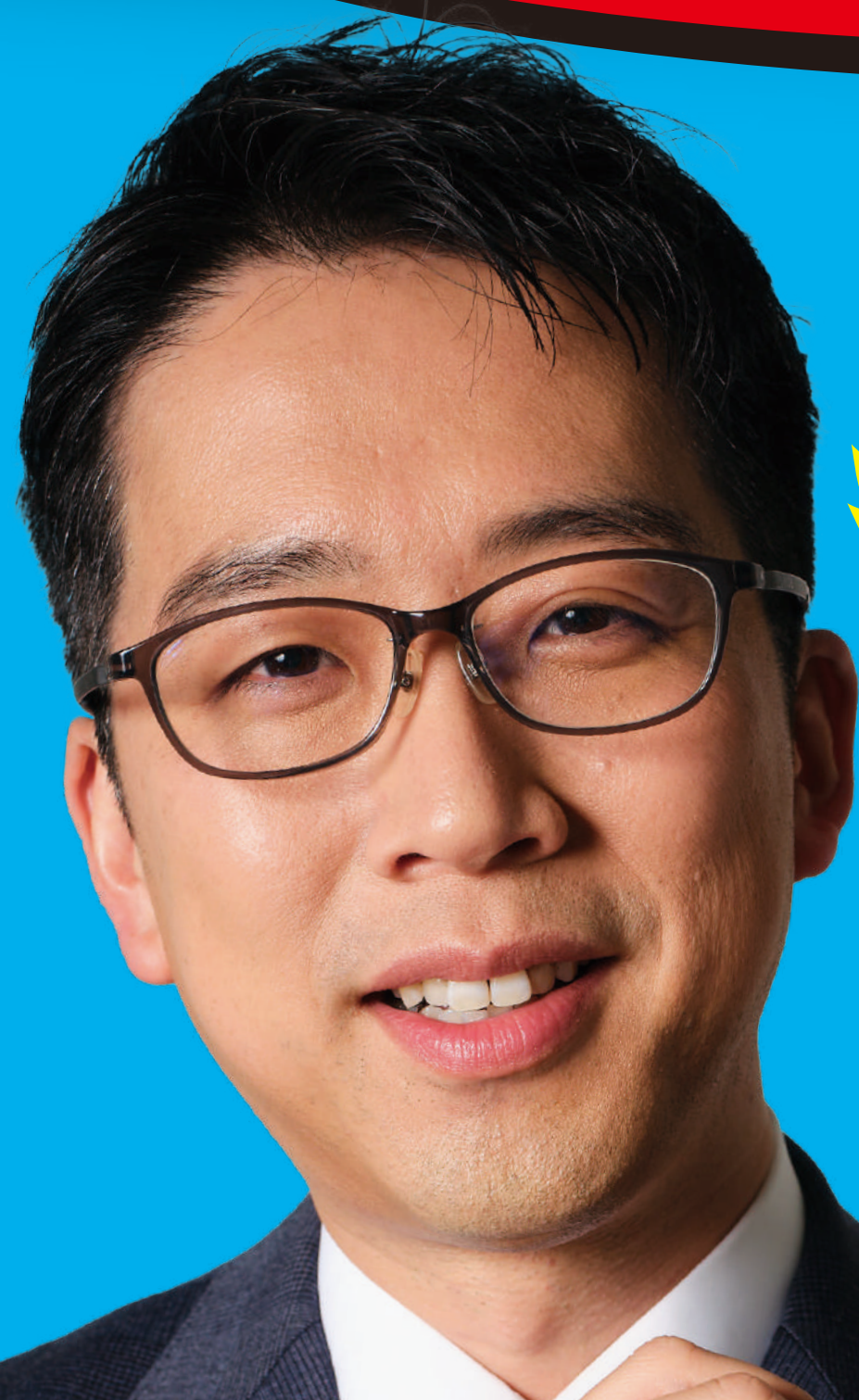
そのために、「伝家の宝刀」として抜かれたのが2つの法律です。1つは「通商拡大法232条」、もう1つが「1974年通商法301条」（通称スーパー301条）です。どちらも非常に重要な法律です。

まずは「通商拡大法232条」。これは「国の安全保障」を盾に輸入品を制限できる、非常に強力な法律です。例えば、鉄やアルミニウムはビルを建てたり、車や兵器を作ったりする上で欠かせない、まさに国の産業力の根幹をなす素材です。もし、海外から安い鉄やアルミが大量に流れ込んできて、アメリカ国内の製鉄所が次々と潰れてしまったらどうなるでしょうか。



発売前重版！

Amazon
はこちら



Voicyフォロワー

11万人

経済キャスター× ラジオDJ

著 DJ Nobby

ディー・ジェー・ノビー

大人気経済
キャスター
DJ Nobbyの
おもしろ解説！

世界情勢をつかんで波に乗れ！

経済ニュースのネタ帳 2026-27 価格(¥1,600+税)

05

AI

「AI魔法」の
時代は終了！

02
トランプ関税

世界を揺るがす、
トランプ関税の
本当の狙いとは？

そもそも「トランプ関税」って何？
第1次政権時は、中国を狙い撃ちした「ターゲット型」関税

まずは時計の針を少し戻して、2017～2021年の第1次トランプ政権時代を振り返ってみましょう。この時期の関税は、専門家の間で「ターゲット型」と呼ばれていました。その名の通り、特定の国や製品を狙い撃ちするスタイルです。当時のトランプ政権が掲げた最大の目的は、アメリカが

「トランプ関税」と聞くと、2025年に始まった第2次トランプ政権の一連の騒動を思い浮かべる方が多いかもしれません。しかし、この政策は第1次政権時代から続くもので「アメリカを再び偉大にする」というスローガンのもと、世界の貿易ルールを根底から覆しかねない新しいフェーズに突入しています。この章では第1次と第2次の違い、そして報道の裏に隠された本当の影響について、わかりやすく解説していきます。



株式会社 J1プロモ